

昭道報



Shodoho --- Newsletter of Shodokan ---

第23号(第5版)
平成21年11月22日発行
<監修>

J A A 師範 成山哲郎
<編集・発行者>
J A A 関西合気道競技連盟 広報部

※JAA---Japan Aikido Association
NPO 法人 日本合気道協会

二〇〇九年 国際合気道フェスティバル 第八回 国際合気道競技大会 ～富木謙治師範没後三十周年記念大会～

平成二十一年(二〇〇九年)九月二十日(日)～二十三日(水祝)、京都市武道センター・旧武徳殿(京都市)にて開催されました。日本ではシルバークウィークと呼ばれる四連休の日であり、盆地気候の京都で一番気候がよい時期。大会中はスポーツイベントにベストなシーズンでとても心地よい天候でした。

「夢の祭典をありがとう」

大会実行委員長 山形 雅章

場内がしんと静まり返った。畳のする音。そして、受け身。武徳殿での師範演武が始まると、目頭が熱くなった。

「最後の私の我がままを聞いてほしい。」

4年前の第六回国際大会の会場、勝浦の日本武道館研修センターで成山師範から、もう一度関西で国際大会をやりたいんだという熱い思いを我々常任幹事5人は聞かされた。

「京都だったら、ぜひ行きたいという外国の選手がたくさんいるんだ」

「旧武徳殿で決勝戦をやりたい」

師範の夢は少しずつではあるが、私たちの夢になっていった。

「ひとりで見える夢はただの夢だが、みんなで見ると夢は現実だ。」誰が言った言葉か忘れたが、夢はいつしか現実になっていった。

現実足敵しい。幾つもの壁を乗り越えねばならぬ。しかし、素晴らしいスタッフに恵まれた。昭道館は町道場である。職業も違えば年齢も違う。ただ一つ合気道で繋がっている。仕事以外にこんな仲間がいる事を嬉しく思う。みんな仕事の合間をぬって稽古

をし、時には睡眠時間を削ってスタッフの仕事をしてくれた。出来ることとや使える時間は様々だ。スタッフの仕事の内容や量によっても人はある

人に負担が集中することもあつたが、誰一人文句を言わなかった。

世界的な大不況にかかわらず

ず、たくさん合気道仲間が京都に集まった。ありがとう。至らない所、不十分な所も多々あつたけれど、大らかな仲間と目で見接して頂き、ありがとうございます。

「来賓のみなさん、大会を盛り上げて頂き、ありがとうございました。」



ご挨拶

NPO 法人日本合気道協会師範・

大会副会長 成山哲郎

まず初めに本大会が世界中の道友の皆様方のご協力により、こうして無事に終了できますことを、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて本年は富木師範の没後三十周年にあたります。先生が亡くなられて以来、私は生前の師範から頂いた心に残る沢山のお言葉を支えに、合気道競技の普及と発展に人生をかけてまいりました。富木師範から頂いたお言葉に、次のようなものがあります。

「今までは完成されたものを普及したものではないために、指導者の養成はおろか十年選手さえも育てることができませんでした。今後は専門家、指導者の養成、専門道場建設、支部設置、全て今からです」

これは一九七四年十一月一日の書簡です。この書簡では更に指導者の養成について述べられています。

○●●●●●○●●●●●○
(次頁へつづく)

大会三日目の夜の本会場、誰も見ていないのに黙々とゴミを拾っている学生がいます。成山師範、夢を分けて頂き感謝して

ありがとうございます。

(前頁からの続き)

「今は練習道場に困っておりますが、近き将来は世界の柔道場ではどこでも合気道競技の部門を置くようになります。それに応じられるように早く立派な指導者を養成したいものです。」

こうした富木師範の熱意があつて、一九七六年三月二十八日に昭道館が師範の研究道場から日本合気道協会中央道場として落成する運びとなりました。

一九七九年八月の昭道館の指導稽古の中では、次のようなお話がありました。

「我々の合気道競技はですね。ようやく十年そこそこということころなんです。だから皆さんも、これから立派な合気道競技をつくるためのですね。一つのフアクターとして協力していただきたいというところなんです。私も限界に来ましたから、皆さんの手でこれから立派なものを築きあげていくんです」

富木師範より頂いたお言葉には、合気道競技の発展に対する情熱と普及への意欲が、常にあふれておりました。私は困難に直面し、心が折れそうになるたびに、こうした先生のお言葉を思い出して、自らを奮い立たせております。

そしてもう一つ。これらのお言葉から富木師範が大切にされていたものが読み取れます。それは合気道競技という言葉です。富木先生は自らが目指す合気道と我々に指し示す際に、常に合気道競技という言葉を冠すなど、ご自身の功績を

誇示されるようなことはありませんでした。これは富木先生の合気道競技に対する真摯で謙虚なお気持ちの現れであり、この先生のお気持ちを大切にする意味で、合気道競技という言葉を使い続けたと思います。

富木師範には、合気道競技を世界中に広めたいという夢がございました。

先生がお亡くなりになって三十年。十四カ国、参加者総数八百名を超える大会を、こうして無事に終えることが出来ました。ことは、富木師範の遠大な夢の一端が叶ったように思えてなりません。今後、その夢をさらに実現に近づけるためには、師範がお亡くなりになる間際まで続けてこられた合気道競技の研究内容を理解し、身につけた指導者を、出来るだけ多く養成し、世界の道友の拠り所となる場を提供することが、私の役目ではないかと感じております。

私は生来、何事にも不器用な人間である.....

どんなイベントだったかと申しますと.....

《九月二十日(日)成山哲郎師範・志々田文明師範によるJ.A.A.の両師範による合気道セミナーが開催されました。施技の時には師範の周りにぎっしり人が集まり、そして実技練習となると様々な国の人が入り混じって会場一杯とところ狭しと広がって稽古しあうという状態でした。午後からは翌日から始まる競技大会を支える審判団が会議や講習会を行いました。》



《2009/09/20(日)合気道セミナーの様子》

ります。そのため特に家族には長年不自由な思いを強いいた気がしてなりません。また多くの方々からの支えがあつて、今の自分がいることを十分に承知していません。なかなかそれを上手く表現できずにいます。この場をお借りして、今も冷めることのない情熱を遺して下さった富木先生と、私を支えてくれる家族をはじめとした全ての皆様に、改めて感謝を捧げたいと思います。今や合気道競技の世界の仲間には私にとってかけがえのない財産です。年齢や性別、国籍を問わず、個々に集う皆様一人一人が、私にとってかけがえのない財産であり、先生の夢の担い手なのです。富木先生の夢は、すなわち私の夢でもあります。夢の実現のために、これからも地位や名誉に拘らず、生涯、合気道競技の一指導者として、残りの人生を燃やし続けることを、改めてお誓い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございます。

《九月二十一日(月)競技大会一日目。開会式の後、全6コートを使つての大団体演武が行われました。午後一番は招待演武の相撲。立命館大学相撲部員による基本稽古の紹介、模擬試合が行われました。最後に股割りが披露されたときには会場中から歓声が上がりました。》

《九月二十二日(火)乱取競技一色の一日。それぞれの選手・クラブ・国の特色がでていました。離隔体勢を作るための「短刀」のはずですが、まるで柔道かレスリングをしているかのようにがっぷり掴んで離さない人が多いチームもありました。ルールを最低限守るべき項目として捉える選手だけでなく、ルールの隙間をいかにいかしていくかか考えていないかのような選手もいるので、合気道あまり知らない人がみたら、いったい何の競技？？と思われらるだろうなという試合もありました。勝負事なのである程度は仕方ありませんが。ただ階級なく大きな体格差でも試合が成立するというところはやはり素晴らしいと思います。》

この日の招待演武は剣道。京都一龍館による剣道の基本稽古から掛かり稽古まで紹介されました。かわいらしい少年から凛々しい教士の皆様が厳しい中にも優しさがあふれる、そんな演武だったと思えます。

(次頁へつづく)

(前頁からの続き)

《九月二十三日(水)》京都武道センター主競技場から重要文化財に指定されている「旧武徳殿」で準決勝・決勝戦が行われました。このような武道の歴史的建造物の会場で勝ち抜いてきた選手が技を競い合うというのはなんともいえない心に染みるものがありました。

この日の招待演武はなぎなた。動作の美しさが際立っており、旧武徳殿の風格にふさわしい演武でした。古式の形から競技形式までご紹介されました。この演武で解説されていた船原静江先生は重要文化財となる前の武徳殿でなぎなたの修練をされていた方です。

今大会は、前年突然訪れた世界的大不況、そして新型インフルエンザの脅威という悪条件の中、国内外から多くの方々に参加されました。そんな参加者の期待に応えるべく、多くのスタッフがそれぞれの役割を担ってイベントを支えました。そしてセミナー、会議、各種武道の招待演武という競技大会以外にも大変充実した内容のフェスティバルとなりました。

試合中は敵でも試合の後には合気道仲間。それが国際大会の素晴らしさだと思います。今回参加された皆様、大変お疲れ様でした。次回開催されるホストの皆様がんばってください。

第八回国際合気道競技大会結果

■演武競技 ■【乱取基本の形十七本 無段の部対徒手】①池田大樹・水畑智晴(日本) ②宮路佳奈・富倉光二朗(日本) ③三橋廉央・佐藤俊介(日本) ④木学万里子・石井大規(日本) ⑤【乱取基本の形十七本 有段の部対短刀】①大西美緒・益田知史(日本) ②東大樹・山本広之(日本) ③山口広治・森本良絵(日本) ④クリスチャンカーカム・ジェームス・バード(イギリス(BAA))

■古流護身の形(座技)立ち技までの十六本)①成山哲也・最上和喜(日本) ②赤木瑞枝・小林由希(日本) ③バツフタングシハルリツツエ・ラーシャロストマッシュヴィリ(ブルガリア(Shidokan Tpis)) ④田中育子・植田有香(日本) ⑤【自由技】①酒井進之介・菅野健太郎(日本) ②松原康祐・津崎善徳(日本) ③

④マイケルプラット・ポールカー(イギリス(BAA)) ⑤杉本龍一・黒岩真一郎(日本) ⑥短刀乱取競技 ■【男子個人戦】①クリスチャンカーカム(イギリス(BAA)) ②松原康祐(日本) ③ジョッシュレイミー(アメリカ(JAA/USA)) ④小中淳二(日本) ⑤【女子個人戦】①山本理絵(日本) ②榎原早苗(日本) ③ローラビヤーズモア(GBR BAA) ④山崎文加(日本) ⑤【男子団体戦】①関東A(日本) ②松原康祐・小中淳二・ティム・ウォルプット・草木俊尚・小林卓(日本) ③東原善一・酒井進之介・菅野健太郎・枝折優・東大樹・本松良太(日本) ④関東B(日本) ⑤竹内僚・神崎崇行・西尾直仁・安田諭史・茂木恵介(日本) ⑥関東学生(日本) ⑦袴田和幸・井上拓海・花輪誠太郎・吉見昌洋・岡本新也・戸叶直宏・篠田安史

⑧女子団体戦)①関西A(日本) ②山崎文加・河村未来・山本理絵・大西美緒(日本) ③Red(イギリス) ④Natuley Smalle / Laura Beardsmore / Danielle Jones(日本) ⑤関東(日本) ⑥伊東美穂・長谷川瞳・榎原早苗・小中啓子・中野郁子(日本) ⑦関東学生(日本) ⑧宮良友紀・大谷早葵・木村裕圭

■種目別混合団体戦 ■①関西A(日本) ②大西美緒・酒井進之介・成山哲也・山崎文加・菅野健太郎・藤本和義・河村未来(日本) ③関西B(日本) ④東原善一・萬谷久美子・岩崎正人・ニルファー・ロバート・川合千陽・堀春男・東太樹(日本) ⑤松原康祐・津崎善徳・小中淳二・山田学・榎原早苗・ティム・ウォルプット・川端俊博(日本) ⑥International (BEL/GEO/BRA) ⑦Gitte Wolput / Ronny Uytbroek / Vahktang Sikharidze / Lasha ROSTOMASHVILI / Aleksandre Kherodinashvili / Sergio Lima / Richardo Marques(日本)



第七回関西少年合気道競技大会(18)

平成二十一年七月十九日(日)、住吉武道館にて行われた関西少年合気道競技大会の結果は以下の通りです。

■演武競技 ■【小学生低学年の部】①桐山世那・乾綾友子(昭道館生野) ②山根光太郎・松尾太朗(昭道館本部) ③阪口創輝・山本康達(昭道館本部) 【小学生高学年の部】①加藤功樹・内村祐介(誠心会) ②高山穂乃加・森川恵(昭道館生野) ③桐山詩音・真田慧倫(昭道館生野) 【中学生の部】①小東卓磨・秋田仁志(瑞光中学) ②宮田航平・鈴見祐悟(昭道館本部) ③林優生・小久保誠司(瑞光中学) 【高校生の部】①大内悠平・大内康平(新金岡教室) ②中得友賀・辻本宏輔(新金岡教室) ③武長佑輔・馬淵拓也(市岡高校)

■短刀乱取競技個人戦 ■【中学生男子】①津谷朋宏(光明池教室) ②池田真悟(昭道館天理) ③大内康平(新金岡教室) 【中学生女子】①村田奈々(瑞光中学) ②西山優希(瑞光中学) ③山口夢香(瑞光中学) 【高校生男子】①荒木佑馬(昭道館姫路) ②池田太樹(昭道館天理) ③藤野稜平(向日町教室) 【高校生女子】①丸島永(市岡高校) ②中得友賀(新金岡教室) ③三田愛美(市岡高校)

■種目別混合団体戦 ■【小学生の部】①昭道館生野A ②誠心会八尾A ③昭道館本部 赤【中学生の部】①瑞光中学E ②瑞光中学B ③新金岡・北千里連合 【①②③

◆最優秀選手賞 ◆【小学生の部】加藤功樹(誠心会) 【中学生の部】津谷朋宏(光明池教室) 【高校生の部】荒木佑馬(昭道館姫路)

平成二十一年昭道館寒稽古

例年通り今年も昭道館本部道場で寒稽古が行われました。少年部は一月十六日(金)～十八日(日)の三日間、成人部は一月十九日(月)～二十四日(土)の六日間、そして二十五日(日)には合同稽古と納会。寒い冬の早朝に多くの方が参加されました。なんと少年部の寒稽古と成人部の寒稽古の両方の計九日間を皆勤した少年達も数名います。その皆勤者の一人に感想文を書いてもらいましたのでご紹介します。

寒稽古に参加して

昭道館本部 宮田航平

一月十六日から二十五日にかけて昭道館本部の寒稽古がありました。ぼくは現在、六年生なので少年部と一般部の両方の寒稽古に参加できる最初で最後のチャンスだったので、思い切って両方合わせて十日間連続で参加しました。

朝の五時、外はまだ真っ暗で、たびたびお母さんやお父さんに起こされました。冬だし寒かったので家から外に出た時は、吐く息も白く、道場に入ればはだしなので、初めは畳の上で足が凍りつきそうでしたが、一所懸命に稽古したら、いつの間にか温かくなっていました。

十六日から三日間がまず、少年部の寒稽古でたくさんの子も達が参加しました。さすがに皆眠たそうでしたが、とてもがんばっていました。習った技は、一日目が「基本技十一本」で二日目が「本体のつくり」と「座技」。三日目が「短刀による突き・体捌き・掛かり稽古」いろ

いろしました。初日の金曜日は、その後学校に行く子が多いので大変そうでした。

次に十九日からの一週間が一般部の寒稽古で、成山師範が稽古をつけてくださいました。一般部は、一日で最高八十人くらい参加していてもビックリしました。稽古はぼくの級よりもっと上級者の護身の形など、やったことがない技が多かったので難しかったけれど、相手の人がわかりやすく説明してくれたので、とてもわかりやすかったです。僕は、その稽古後に学校に行きましたが、しんどくて学校の休み時間に寝てしまいました(授業中は寝ていません!)

十日間、少年部と一般部の稽古に行っても、自分でもよくがんばったなと思いましたが、成山師範は三十六年連続で皆勤していると聞いて、とてもビックリしました。最終日の納会で、少年部の皆勤賞をもらいました。一般部でも皆勤者として自分の名前が呼ばれてとても嬉しかったです。寒稽古に参加してよかったです。



ここで参加者にしかわからない問題。

左の写真は寒稽古何日目の写真でしょうか?参加者の表情から想像してみてください。



第二十九回関西学生合気道競技大会

平成二十一(二〇〇九)年六月十四日(日)、住吉大社武道館(大阪市住吉区)にて関西学生合気道競技大会が開催されました。結果は以下の通りです。

- 演武競技■【対徒手(男子)】①大阪商業大学(田中辰平・金田太一) ②國土館大学(袴田和幸・木浦大毅) ③近畿大学(瀬尾貴之・泉健太郎)【対徒手(女子)】①近畿大学(後藤佳奈・田淵有亜) ②関西学院大学(橋本育実・田淵彩子) ③大阪市立大学(岩田麻衣・佐崎美代子)【対武器(男子)】①國土館大学(井上拓海・高橋克依) ②近畿大学(榊原健丞・中野靖大) ③関西学院大学(永田純一・田村浩一)【対武器(女子)】①関西学院大学(東郷公美・岡奈央子) ②成城大学(長谷川有梨・水落麻理子) ③近畿大学(尾中友美・笹田香)

- 短刀乱取競技■【個人戦(男子)】①大樫直樹(近畿大学) ②田村浩一(関西学院大学) ③八倉大輔(近畿大学)【個人戦(女子)】①河西朋奈(大阪商業大学) ②後藤佳奈(近畿大学) ③橋本奈々美(関西学院大学)【団体戦(男子)】①関西学院大学 ②大阪商業大学 ③山口大学【団体戦(女子)】①関西学院大学 ②大阪芸術大学 ③近畿大学

第三回短刀乱取検定

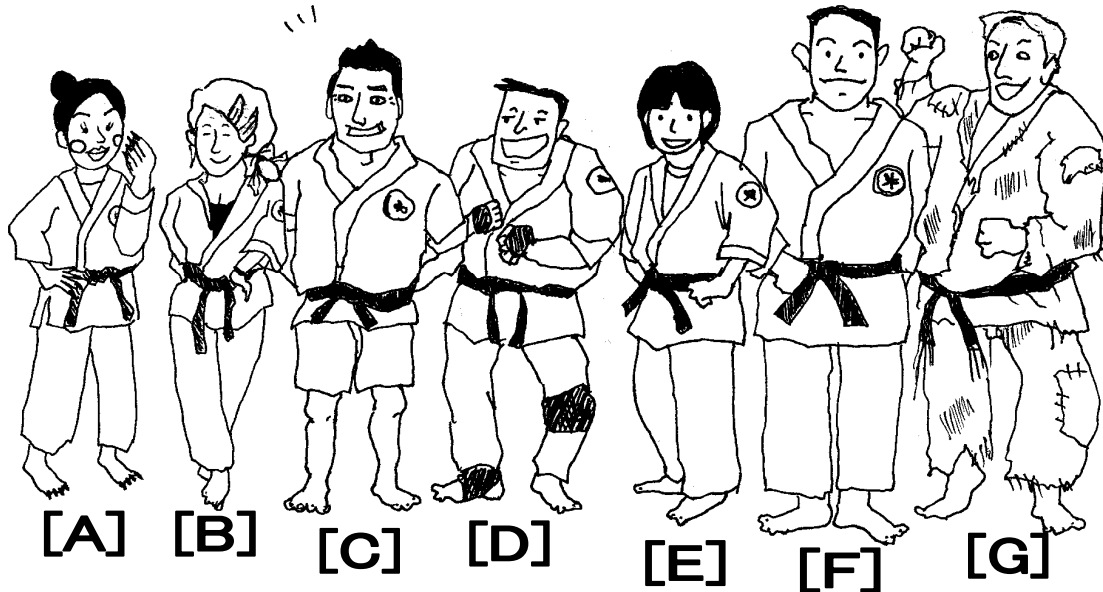
Randori Quiz - Part 3

合気道乱取競技は実際の攻防の中で勝機をつかみ方や技と技の連絡変化の方法やコツを学ぶことができ、また「競技の場」に身を置くことにより、強い精神力を養ったり礼儀・公正の態度も養ったりすることが出来ます。合気道短刀乱取競技のルールを楽しく学んでいきましょう。

Randori Aikido was the brainchild of Kenji Tomiki Shihan. The practice of randori aims at exploring ways to create chances to achieve proper waza, and developing the ability to connect one waza to another from both offensive and defensive positions. The practice allows us to develop spiritual strength as well as learn the proper etiquette, courtesy and fair play which govern the practice of aikido.

さて問題です。以下の7人の内、合気道競技に参加できるのは誰？

Question: Out of the 7 people below, who can take part in an aikido competition?



第三回短刀乱取検定解答 Answer

[A]の選手は手足の爪が伸びて、化粧もしているようです。相手を引っかくつもりでしょうか。爪がはがれて痛いのは自分だということがわからないのでしょうか。[B]の選手は髪にバレッタが付いています。また色つきのシャツで、しかも胸元が見えるトップをつけています。また髪の毛もきちんとまとめられていません。スポーツ選手らしさがないですね。[C]は究極の省エネ道着！？上衣はめくりすぎて肘が見えています。ズボンも涼しそうに膝が見えていますね。[D]は何の競技をするつもりでしょうか、いろいろなプロテクタを身に着けているようです。[E]おや？昭道館本部の誰かに似ていませんか？[F]この人も昭道館本部の誰かに似ていますね。[G]道着の汚れが激しく、またつぎはぎや破れが目立ちますね。ということで、この中で競技に出場できる身なりの選手は[E]と[F]でした。

Player A has long nails and make up. Will she scratch at her opponent? Didn't she realize that she would hurt herself? Player B has barrettes in her hair and her colorful top doesn't cover her chest. Player C's dogi is too short, as they don't cover knees and elbows. What sport does player D want to do? He has protective padding on. What a dirty dogi player D has on! So the only players who can attend to aikido competition are E and F.

スペースが空いたのでここで
編集後記

二〇〇九年国際合気道フェスティバルが成功に終わりました。大会前はもちろん、大会中も深夜まで作業をしていたスタッフ、競技会場にいたながらも入り口で受付や販売係になって大会観戦できなかったスタッフ、旧武徳殿で決勝戦をやっている間もずっと荷物置き場である体育館客席で警備を勤めていたスタッフ、その他多くのスタッフの皆様、お疲れ様でした。世界的大不況・新型インフルエンザの恐怖の中参加された皆様も「参加してよかった」と思われたことでしょうか。「乱取検定」の絵は松本なみさん作成です。ありがとうございます。本日は国際大会前に発行して啓蒙したかったのに急いで描いてもらったのに、私の作業が間に合わず、大会後の発行となってしまいました。すみません。

Editors

Yumiko DATE

David GRAVES

Kumiko MANTANI

Special Thanks

Shinnosuke SAKAI

バックナンバーは

Web サイトで...

昭道報

検索

8th International Aikido Tournament Results

Embu - 17 Basic Randori Techniques (Non - dan)

1st	Hiroki Ikeda - Tomoharu Mizuhata (Kansai, Japan)
2nd	Kojiro Tomikura - Kana Miyaji (Kansai, Japan)
3rd	Mariko Kigaku - Daiki Ishii (Kanto, Japan) Yasuo Mitsuhashi - Syunsuke Sato (Kanto, Japan)

Embu - 17 Basic Randori Techniques (Dan)

1st	Mio Ohnishi - Tomofumi Masuda (Kansai, Japan)
2nd	Taiki Higashi - Hiroyuki Yamamoto (Kansai, Japan)
3rd	Christian Kirkham - James Bird (BAA, UK) Koji Yamaguchi - Yoshie Morimoto (Kansai, Japan)

Embu - Koryu Goshin-no-kata (From Suwariwaza to Toshu Tachiwaza)

1st	Tetsuya Nariyama - Kazuki Mogami (Kansai, Japan)
2nd	Mizue Akagi - Yuki Kobayashi (Kansai, Japan)
3rd	Vakhtang Sikharulidze - Lasha Rostomachvili (Shidokan Tbilisi, Georgia) Ikuko Tanaka - Yuka Ueta (Kansai, Japan)

Embu - Free Style

1st	Shinnosuke Sakai - Kentaro Sugano (Kansai, Japan)
2nd	Yasuhiro Matsubara - Yoshinori Tsuzaki (Kanto, Japan)
3rd	Michael Pratt - Paul Carr (BAA, UK) Ryuichi Sugimono - Shin'ichiro Kuroiwa (Kanto, Japan)

Tanto Randori - Men's Individual

1st	Christian Kirkham (BAA, UK)
2nd	Yasuhiro Matsubara (Kanto, Japan)
3rd	Josh Ramey (JAA/USA, USA) Junji Konaka (Kanto, Japan)

Tanto Randori - Women's Individual

1st	Rie Yamamoto (Kansai, Japan)
2nd	Sanae Sakakibara (Kanto, Japan)
3rd	Laura Beardsmore (BAA, UK) Fumika Yamasaki (Kansai, Japan)

Tanto Randori - Men's Team

1st	Kanto A (Japan) [Yasuhiro Matsubara/Tim Wolput/Toshihisa Kusaki/Taku Kobayashi]
2nd	Kansai A (Japan) [Yoshikazu Higashihara/Shinnosuke Sakai/Kentaro Sugano/Yu Shiori/Taiki Higashi/Ryota Motomatsu]
3rd	Kanto B (Japan) [Ryo Takeuchi/Takayuki Kanzaki/Naohito Nishio/Satoshi Yasuda/Keisuke Mogi] Kanto Univ. (Japan) [Kazuyuki Hakamata/Takumi Inoue/Seitaro Hanawa/Masahiro Yoshimi/Shinnya Okamoto/Naohiro Tokano/Yasuhito Shinoda]

Tanto Randori - Women's Team

1st	Kansai A (Japan) [Fumika Yamasaki/Miki Kawamura/Rie Yamamoto/Mio Ohnishi]
2nd	BAA Red (UK) [Natuley Smalle/Laura Beardsmore/Danielle Jones]
3rd	Kanto Univ. (Japan) [Yuuki Miyara/Saki Otani/Yuka Kimura] Kanto (Japan) [Miho Ito/Hitomi Hasegawa/Sanae Sakakibara/Keiko Konaka/Ikuko Nakano]

Mixed Team Events

1st	Kansai A (Japan) [Mio Ohnishi/Shinnosuke Sakai/Tetsuya Nariyama/Fumika Yamasaki/Kentaro Sugano/Kazuyoshi Fujimoto/Miki Kawamura]
2nd	Kansai B (Japan) [Yoshikazu Higashihara/Kumiko Mantani/Masato Iwasaki/Nilufer Roberts/Chiharu Kawai/Haruo Hori/Taiki Higashi]
3rd	Kanto (Japan) [Yasuhiro Matsubara/Yoshinori Tsuzaki/Jyunji Konaka/Manabu Yamad/Sanae Sakakibara/Tim Wolput/Toshihiro Kawabata] International(BEL/GEO/BRA) [Gitte Wolput/Ronny Uyttebroek/Vakhtang Sikharulidze/Lasha ROSTOMASHVILI/Aleksandre Kherodinashvili/Sergio Lima/Richardo Marques]

Closing Address

Shihan Tetsuro Nariyama as the Event Vice-President

First, I would like to thank all of you for your cooperation. Thanks to your help, we have completed our program successfully. Thank you.

This year marks the 30th anniversary of Tomiki shihan's passing. Since then I have spent all of my life trying to develop and spread the idea of Competitive Aikido. Before he passed away, Tomiki shihan gave me a lot of encouragement and those words of encouragement have always helped me in my efforts.

In his letter of 1st November 1974,

"I have not yet produced instructors or experienced aikido players. From now on, one of my goals will be to create Aikido experts and Aikido instructors, to construct a permanent facility and establish branches".

He went on to say,

"Now we have a few Aikido clubs for Competitive Aikido. But in the near future, I would like to establish an Aikido Department in all of the major Judo facilities throughout the world. For this purpose, it is necessary to create experienced aikido instructors."

It is with this passion expressed by Tomiki shihan that Shodokan was founded as Japan Aikido Association's Central Dojo from Tomiki shihan's research and development one on March 28th, 1976.

During a class at the Shodokan in August 1979, Tomiki shihan said,

"Competitive Aikido is still young. Only 10 years passed since its birth. I need help from all of you in order to establish Competitive Aikido firmly. Now I am old. From now on, it will not be I but you who will develop Competitive Aikido".

His words of encouragement were always full of energy and passion for the development of Competitive Aikido. Whenever I hit a wall, I hear his encouraging words and this helps me overcome difficulties.

I would like to add that we can understand from his comments what it is that he treasured, the words "Competitive Aikido".

Tomiki shihan always showed us the path of Aikido by constantly using the word "Competitive Aikido". He also never crowned his achievements by labeling them with his own name.

This shows us his modesty and faith in "Competitive Aikido" and we would like to continue using the word "Competitive Aikido" in the same way to preserve his thoughts.

One of Tomiki Shihan's dreams was to spread Competitive Aikido all over the world.

Thirty years passed since his death. We have now successfully completed the 8th International Aikido Tournament. Over 800 Aikido practitioners from 14 countries have attended this tournament. So one of Tomiki Shihan's dreams has come true.

For the further development of competitive Aikido, it is necessary to produce experienced instructors, who fully understand the theory of Aikido developed by Tomiki shihan.


I am not good at expressing my feelings. So sometimes my family had to bear the strain of my dedication to Aikido. But I fully understand that a number of people have supported me for a long time. I cannot express my appreciation as I would like to.

So here I would like to say thank you to Tomiki Shihan, my family and all of you for supporting me all this time.

All Aikido practitioners worldwide are now my treasure. We need help from every single practitioner in order to make Tomiki Shihan's dream come true.

The dream of Tomiki shihan is also my dream.

To make his dream and my dream come true, I will spend the rest of my life furthering the development of Competitive Aikido as an Aikido instructor. Thank you all very much.

 <p>Shodoho --- Newsletter of Shodokan ---</p>	<p>No.23 Ver.05 Date of issue: 22-Nov-2009 Supervisor: Tetsuro Nariyama (JAA Shihan) Editor & publisher: Public and press dept. JAA Kansai Aikido Competition Federation E-mail: shodoho@yahoo.co.jp</p> <p><input type="text" value="shodoho"/> <input type="button" value="Search"/></p>
---	--

The 2009 International Aikido Festival and 8th International Aikido Tournament

The 2009 International Aikido Festival and 8th International Aikido Tournament was held from September 20th to 23rd, 2009 at Kyoto-shi Budo Center and the Kyu-Butokuden in Kyoto Japan.

Kyoto is located in a valley and is subject to large temperature variations. September is the best season of the year so it was comfortable throughout the event.

《Sunday, Sept. 20th》

An Aikido seminar was held by Shihan Fumiaki Shishida and Shihan Tetsuro Nariyama. Participants gathered closely together to watch the demonstration, then they used the full floor to practice with other participants from various countries.

The International Referee members, who supported the tournament, held a meeting and seminar in the afternoon.

《Monday, Sept. 21st》 The first day of the tournament. There were group embu demonstrations held by several hundred participants after the opening ceremony.

The first event in the afternoon was a special demonstration of Sumo, which is a national sport in Japan. It started from basic movements but gradually moved up to show the competitive style as well.

Spectators gave a round of applause when they showed "Matawari", the practice of spreading the legs 180 degrees. The softening of the hip joints is done to prevent injuries in heated sumo bouts.

The embu competition started after that. The event went very smoothly with the help of the excellent staff members and the cooperation of all the participants.

《Tuesday, Sep 22nd》 Randori day. The characteristics of each of the players, clubs, and countries were easy to see. Although it was the "tanto" competition and there should have been more separation between players, there were teams that played as if they were doing judo or wrestling by holding or grabbing the opponent. At the very least the rules should be followed, but some players who even though they understood the rules, tried to bend them to their advantage. Perhaps a person watching aikido for the first time would not be able to understand what the

sport is all about. As it is a competition, it cannot be helped to a certain extent. However, even though there are no weight divisions, there were many great players using aikido principles like body movement power and so on.

The special embu for the day was Kendo, demonstrated by Kyoto-Ichiryukan. They introduced from basic action of kakari keiko. Various participants from little boys to instructors showed a great embu.

《Wednesday, Sep 23rd》 The finals and semi-finals were held at the Kyu-Butokuden, which is a national heritage. It was heart warming to watch the players, who had made it through the preliminary rounds, perform their techniques in such a historical martial arts landmark.

The special demonstration of the day was Naginata. The beauty of the movement stood out, and it was embu which was good for the moral tone of the Kyu-Butokuden. They introduced the old style form of competition. Sensei Shizue Funahara, who explained the demonstration, practiced Naginata at Butokuden before the building became the important cultural property that it is today.

Many aikido friends from inside and outside of Japan participated in the event, even though there was a sudden global recession and the menace of swine flu was lingering in the air. Many staff took important roles and supported the event for the participants. This festival was a substantial event consisting of not only a tournament, but seminars, international meetings, and special demonstrations as well.

Although players were opponents on the mat, they were friends after the match. I think that this is the splendor of international events.

Thanks to all the participants and staff and see you at the next tournament.